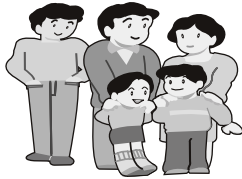


## 山陽小野田市の平成 18 年度の一般会計予算を

## ご家庭の家計簿に例えてみると…?

「市の予算って聞いても、中身が分かりにくい」という声をよく聞きます。そこで、山陽小野田市の平成 18 年度一般会計予算額を、月収 30 万円の山陽小野田さんの家庭に例えてみました。

「山陽小野田家」の  
家族構成

山陽小野田太郎さんは奥さんと大学生の一郎さんを含む子ども 3 人の 5 人家族。勤めている会社の業績が最近、回復しつつあり、給料も若干上がってきています。しかし、それでも食費やローンの返済に追われ、実家の援助なしには生活できない状況にあることには変わりありません。しかも、大学生の一郎さんへの仕送り、介護費用などがこれから増えていくことを考えると頭が痛い毎日です・・・

収 入		
給料	150,000 円	50%【市税など自主財源】
妻の内職	8,000 円	2%【使用料, 手数料, 財産収入など】
実家からの援助	110,000 円	37%【地方交付税, 国・県支出金など】
借金	30,000 円	10%【市債】
貯金取り崩し	2,000 円	1%【繰入金】
合計	300,000 円	

支 出		
食費, 税金	63,000 円	21%【人件費】
教育費, 医療費, 介護費用	52,000 円	17%【扶助費】
ローンの返済	40,000 円	13%【公債費】
光熱水費	31,000 円	10%【物件費】
家・車の修繕費	1,000 円	0%【維持補修費】
お祝い金, 慶弔など	24,000 円	9%【補助費, 投資及び出資金】
子どもへの仕送り	38,000 円	13%【他会計への繰出金】
家の増築	32,000 円	11%【投資的経費】
その他	19,000 円	6%
合計	300,000 円	

家計簿  
チェック

## 現状は・・・

これまでも「光熱水費」(＝物件費)「家, 車の修繕費」(＝維持補修費)などで節約をすすめてきましたが、18年度は「食費」(＝人件費)「教育費」(＝扶助費)「お祝い金」(＝補助費)なども大幅に減らさないと生活できない状況になりました。

## 来年以降は更に厳しく・・・

頼っている実家(＝国・県)も徐々に余裕がなくなってきているので、これからはあまり期待できないでしょう。更に、大学生の長男への仕送り(＝繰出金), ローンの返済金(＝公債費), おじいちゃん介護費用(＝扶助費)など出費はどんどん増えていく可能性があります。今年は、次男・三男が大きくなり、家が手狭になったため、苦渋の選択でしたが、やむなく借金をして増改築(＝投資的経費)しました。

## 赤字再建団体への転落の可能性も・・・

これまでは、出費に対して足りないところを今までためた貯金(＝基金)を崩して生活してきましたが、18年度に貯金の残高はほとんどゼロになってしまいました。生活する上で必要な経費(＝義務的経費)すらまかなうことができなくなったとき、**山陽小野田家は再建団体へ転落することになります。**



**再建団体へ転落しないためには今以上に出費を抑えていくしかありません(＝行財政改革)**